



ラテラン教会の献堂 (ヨハネ 2:13-22)

新しい神殿、新たな時代の幕開け

ラテラン教会の献堂の祝日を迎えました。ローマを巡礼したことがないので実際のラテラン大聖堂を見たことがないのですが、コンスタンチヌス帝によってローマのラテランに建てられたこの聖堂の記念は、十二世紀から11月9日に行われたと伝えられています。

この聖堂はローマ司教区の司教座聖堂ですから、初めはローマ司教区だけで祝われていました。わたしたち長崎教区も、浦上教会を司教座聖堂としていまして、献堂の記念は諸聖人の11月1日に長崎教区だけで祝うわけですが、「ローマと世界のすべての教会堂の母であり頭」「全カトリック教会の司教座聖堂」と呼ばれたラテラン大聖堂をたたえるために、全世界のローマ典礼の教会で祝われるようになりました。この日を共に祝うことで、ペトロの座に対する一致と親愛のしるしを表します。

福音朗読に入りましょう。今日のラテラン教会の献堂の祝日と関連付けて、わたしたちの教会のあるべき姿について考えてみたいと思います。イエスは神殿から商人たちを追い出しました。神殿の境内には、牛や羊や鳩を売っている者たちと、両替をしている者たちがいました。

当時の神殿での礼拝は、収入に応じていけにえをささげ、神殿税を納めていました。いけにえは、各自が持ち寄ってささげることも可能でしたが、遠方からはるばる礼拝に来る人たちにとっては、神殿でいけにえの動物を調達できるほうがはるかに便利でした。また神殿税は、当時一般に流通していたローマ皇帝の肖像が刻まれたデナリオン銀貨ではなく、神殿専用の古い貨幣で納める必要があったので、両替をする人もおのずと幅をきかせていたのです。

イエスはこれらの人々を追い出し、強い口調で立ちほだかります。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」(2・16) 神殿で売り買いをすることがイエスの神経に触ったのでしょうか。

それだけでは、「縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し(た)」(2・15) 行動が説明できません。イエスが腹立ち紛れにこのようなことをするとは考えられないからです。二度とこのようなことは行われぬ。今後、従来礼拝に立ち戻ることは決してない。その決意の表れが見て取れます。

イエスは何を知らせようとしたのでしょうか。イエスはこの日の出来事で、「新しい神殿、新たな時代の幕開け」を知らせようとしたのです。動物のいけにえをいくらささげても、人間の罪が償われ、救いが完成することはありません。もはや後戻りすることのない救いの完成、イエスによって救われる新たな時代が到来したことを、はっきりさせるためにイエスは神殿から商人を追い出したのでした。

犠牲の動物をいくらささげても救いは完成しませんが、イエスがご自身を犠牲としてささげるなら状況は一変します。神は御子の犠牲を受

け入れられ、人類を救ってくださいます。わたしたちは御子が十字架の上で完全な犠牲をささげてくださったことを知っており、この犠牲は今もカトリック教会の祭壇の上で繰り返し行われていると理解しています。

祭壇で行われるミサを通して、動物の犠牲では果たせなかった完全ないけにえがささげられます。そして今日は、ラテラン教会の献堂を祝い、全世界の祭壇でミサをささげることで、一致してこの世界には新しい神殿が建てられていて、新たな時代が到来していることを世に示しているのです。

ところで、イエス・キリストという「新しい神殿」でご自身を犠牲としてささげた唯一の礼拝はすでに完成していますが、この唯一の礼拝は、世の終わりまで受け継がれる必要があります。イエスはご自分をいけにえとしてささげる礼拝を、ミサという形で弟子たちに残し、「記念として行いなさい」と命じました。

ミサ聖祭は、イエス・キリストの身分において祭儀を執り行う司祭と、祭壇を囲む信徒によって行われます。司祭はここにいますが、祭壇を囲む信徒とは誰のことでしょうか。わたしは、今日堅信の秘跡を受けて大人の信徒の仲間入りをする受堅者が、祭壇を囲む信徒なのだと思います。

つまり、堅信の秘跡を受けるまでに長い準備を行い、堅信の秘跡によって聖霊の七つのたまものを受けた信徒が、これからも教会に与えられなければ、イエス・キリストによる唯一のいけにえ、唯一の礼拝は続けていくことができないと思うのです。

もちろん司祭は必ず必要ですが、たとえ司祭がいても祭壇を囲む信徒がいなければ「主は皆さんとともに」「また司祭とともに」というミサ聖祭は豊かさを失ってしまいます。洗礼の恵みを強められ、信仰を強く表す聖霊のたまものを受けた信者が、これからの教会に必要なのです。

中田神父が考える教会のあるべき姿は、堅信の秘跡を受けた大人の信者が常に与えられ、祭壇を囲む姿です。信仰に反する考え方や態度に勇敢に立ち向かい、祭壇を囲んでくれる姿です。イエス・キリストの唯一の礼拝であるミサに集い、共にささげる信徒が絶えない教会です。

堅信の秘跡を受けた信徒がこれからもミサ聖祭にたえず集まる教会は、自分たちが受けた聖霊のたまものによって、信徒同士の活動と、宣教活動にも照らしを与えられ、教会は活動していくでしょう。

今年も、堅信の秘跡を受ける子供たちが上五島地区にたくさん与えられました。イエス・キリストという新しい神殿による唯一の礼拝はすでに始まり、新たな時代が幕を開けています。今年受堅者にも豊かに聖霊の恵みが与えられ、「わたしを教会の中で使ってください」と勇気をもって答える人に育っていけるよう、わたしたち皆で願い求めることにしましょう。